



2.2 2023 春季闘争 第1次単組オルグの実施について

2月2日(木)、組合カフェルームにて県本部開催による「2023 春季闘争 第1次単組オルグ」が実施された。太田市職労からは小林委員長ほか2名が出席し、県本部からは飯島書記長、樺澤書記が出席した。本オルグは今春に控える2023 春闘を前に、県本部が県内各単組を周り、春闘の取り組み及び当面する諸課題等について意思統一をはかることを目的に行われるもの。

オルグの実施に当たり県本部は、2023 春闘を迎えるにあたって労使交渉では要求書を提出することに満足するのではなく妥結までを行うことの必要性を強調した。また、昨年的人事院勧告にて提言された「給与制度のアップデート」について触れ、今後、国家公務員の給与は若年層職員の給与が引き上げられる一方で40歳以降の職員の給与は引き下げられる見通しを示し、国公準拠が原則の地方公務員も同様の対応となる可能性を示唆した。さらに定年引き上げに伴って当局(雇用者)は

従来の賃金カーブを修正する必要があることから、55歳以降の職員給与は昇給停止に留まらず、むしろ年次降給していく公算も併せて示した。これに備えるためにも県市間わず本春闘から給与水準の引き上げを求めていくことの重要性を説いた。

オルグの場では県本部を交え、太田市職労が抱える労働条件の諸問題ほか県内の動向について、2023 春闘とその後を見据えて意見交換を行った。太田市職労との意見交換の内容を踏まえ、県本部が2023 春闘で太田市職労に期待することとして、自治労県本部も共通課題として継続要求している「中途採用職員の昇任・賃金条件改善」や「建築主事について必要な評価制度導入」の勝ち取りを挙げた。これらの成果を端緒として他単組の労働条件改善に好循環を及ぼすことが見込まれるとして希求し、オルグを締めくくった。

編集後記

お世話になります。教宣担当です。少し遅くなりましたが本年も『職友おおた』をよろしくお願いいたします。
▶持っているカメラの機能と撮影能力に限界を感じ、写真には映らない美しさを求めてカメラの買い替えを行いました。カメラを入手したあかつきには週末に美しい風景をファインダーに収める日常が待っていることを期待していましたが、今のところSDカードに記録されるのは労働組合の写真ばかり。こんなはずでは…。▶いずれにせよ写真の撮影機能と解像度が上がったことに間違いはないので、2023年発行分の機関紙からは“綺麗な労働組合の写真”をお届けいたしますのでご注目を！